

## あわくら会館

# 村民が“生きるを楽しむ”ための活動拠点! 「あわくら会館」 (図書館・役場機能を有する複合施設)



「あわくら会館」は、公民館、図書館、役場機能を有する複合施設です。令和3年6月に完成を迎えましたが、生涯学習エリアとなる公民館・図書館は、令和2年4月より開館しています。

「住民みんなが輝くための施設」「村民に開かれ愛される村民の活動拠点」となるために、村民自らが設計の段階から関わってきました。村民一人一人が生きることを楽しみ、学びやつながりを通じ、人や地域が育つための拠点となっていてほしいという思いを込めた施設となっています。



## 「あわくら会館」ができるまで

H29 村民ワークショップ (4回) (総務企画課)  
生涯学習施設活用検討委員会 (6回) (教育委員会)

## R2 「あわくら会館」完成! そして...

### スタートはココ!

### 複合施設へと生まれ変わる!

村の基幹施設を改修するにあたり、機能の一元化、サービスの向上、そして、何より「住民みんなが輝くための施設」「村民に開かれ愛される村民のための活動拠点」となるために、公民館、図書館、役場機能を兼ね備えた複合施設として生まれ変わるというビジョンの共有からスタートしました。

### 村民ワークショップ

#### 村民の実現したいを設計へ①

各地区や団体の役員、参加希望の地域住民等で、基本設計のための実現したい活動イメージについて意見交換をしました。

設計事務所の方がファシリテーターを務め、さまざまな立場からの考えを引き出し、多くの意見が集まりました。

例えば、「夜の図書館を実現したい」の意見に対して、次回は「実現のために何が必要か」と設定し、具体的に意見交換ができるようにしています。

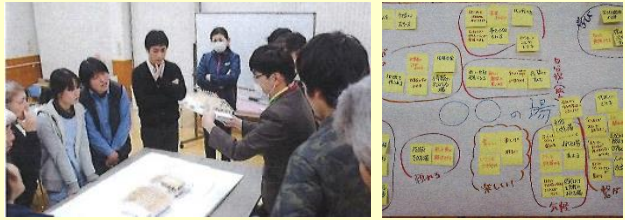


### 生涯学習施設活用検討委員会

#### 村民の実現したいを設計へ②

社会教育委員や文化協会長、地域おこし協力隊や読み聞かせボランティア等、生涯学習のキーパーソンや参加希望の地域住民で集い、新施設の活用イメージを設計士に伝えるためのワークショップを開催しました。

先の村民ワークショップも踏まえ、意見交換を重ねてきましたが、第5回からは、施設模型も登場し、施設ビジョンの言語化、図書館蔵書数の検討等、設計に関わるより具体について、さらに話し合いを深めていきました。



## 「あわくら会館」の“現在”

ミッション (使命)  
「みんながいつでもとりあえずよりいたいところに。」

- そして、
- 「だれかとなんでもできるの応援団に。」
- ・いつでも...仕事、休みの日、朝、昼、晩  
→「常に開かれた場所として」
  - ・とりあえず...ファーストチョイス、自然と  
→「行けば満たされる」
  - ・だれかと...友達、仲間、家族、子ども、大人、高齢者、関係性が薄い人、初めての人  
→「関係性を超えて」
  - ・なんでも...趣味、仕事、図書館利用、何もしない  
→「生きるを楽しむこと」

生涯学習施設活用検討委員会での「施設ビジョン」を受けて、館のスタッフで話し合い掲げられたミッション

### 【あわくら会館の役割】

- “生きるを楽しむ”ための活動拠点施設
  - ・趣味を見つけ、広げ、深める
  - ・仲間づくりなどコミュニティの形成
  - ・イベント、ワークショップなど多様な体験
 「やってみん掲示板」「村民講師イベント」等
- 知りたい情報を知ることができる情報拠点施設
  - ・図書館を中心とし、必要な情報の提供
 「図書館」「情報コーナー」等
- 自由に使い方を作り出せる実現施設
  - ・多くの村民が、あつまり、つながり、やってみることができる
 「村民講師イベント」「音楽鑑賞会」「夜の自習室」等



### 【あわくら図書館の事業】

- 「村まるごと図書館」  
幼小中学校の図書室は、あわくら図書館が管理。また、地域住民の集まる場所等、読書の輪を広げたい場所に本箱を置き、誰でも本を手にする機会と本を囲んだつながりをつくる。現在、6カ所に設置。(商店、会社、歯科医院、飲食店、温泉、子育て支援施設)それぞれの図書館長が選書を行う特色ある図書館となっている。
- 読み聞かせボランティア“ピッピー”との連携

### 図書館オープン後の取組

- 「あわくら会館通帳」: 本の貸出履歴、館を拠点としたイベントや企画を印字する。
- 「あわくら会館サポーター」: それぞれの特技や“やってみたい”を活かし、イベントの企画等、あわくら会館の取組や運営をサポートしている。
- 「高齢者アウトリーチサービス」: 診療所・社会福祉協議会の訪問介護等と連携し、図書館へ来館できない方への読書機会を提供する。

## 「生きるを楽しむためのサポーター」

施設運営の担当者として、あわくら会館の建設構想から関わってきました。その中で、村は村民の「やってみたい」で溢れていることを知りました。

村民が“生きるを楽しむ”を実現していくためには、一人一人の「やってみたい」が叶っていくことが大切と考えています。館内は「やってみたい」を叶えていくため、思いのままに使えるように様々な空間を準備し、自由な使い方を思いつき、利用しやすくするための仕掛けやルールづくりを行っています。

スタッフは「やってみたい」を叶えるための、“仲間あつめ” “つながりの橋渡し” “やってみることへの伴走”を役割とし、日々村民をサポートしています。

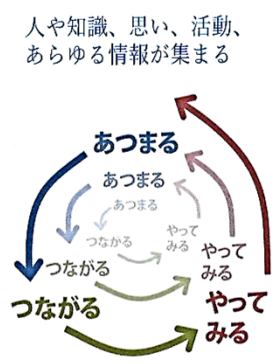
西栗倉村の公民館は、従来のイベント・事業を実施する場から、村民が自ら“生きるを楽しむ”ための活動を実現していくサポート施設へ変化しています。



西栗倉村教育委員会 主事 白岩 将伍さん

## 施設ビジョン (未来像)

あつまる、つながる、やってみる、



世代、地域、ずっと村にすんでいる人、移住者など 関係性を超えてつながる

やってみることができる、一緒に活動する、イベントに参加、学びを深める

## 「未来商店街」の歩み

久米南町中央公民館

## 公民館が拠点! 中高生が活躍する「未来商店街」

公民館を拠点に何か新しい取組ができないか?

- 「中高生が活躍! おかやま創生を支える人づくり推進事業」の活用
- 産業振興課・地域おこし協力隊との連携

町中心部の旧下弓削商店街で別々に開催しているイベントがある。中高生を含めて、そのイベントをより盛り上げることができないか?

- 地域団体への連携要請&イベント充実に向けた働きかけ  
[上之町] 上之町地区活性化委員会 「上之町マーケット」  
[下之町] シュガーフレンズ 「シュガーガーデンで会いましょう」

- 中高生が主体的に企画・運営に参加した「未来商店街」開催!  
・約20店舗が出店 ・有志バンドによるコンサート  
・中高生が考案したクイズ 等

来年度は、町全体の活性化を目指した取組にしよう!

- 令和元年度「未来商店街」は、実行委員会を立ち上げ!

- ・実行委員会を中心とし、まちづくり団体がつながり合い「未来商店街」をつくっていく。中学生11名が参加。

- 公民館をフル活用! 中学生が主体的に活動できる場を確保

- ① 中学生会議：中学生の思いの実現のため、実行委員会に向けて中学生だけで集まって意見をまとめる時間を確保。
- ② 実行委員会：中学生と地域の大人、まちづくり団体等による話し合い。大人だけで遅くまで話し合うことも。
- ③ 作業日：小道具の制作や調理の試作等を行う。
- ④ 地域イベントへ参加：商工会との連携、イベントノウハウを学ぶ。
- ⑤ 会場準備：のぼり設置、歩行者天国にするための看板用意。
- ⑥ 本番直前：景品準備、会場マップ確認、ステージ企画打合せ等
- ⑦ 当日：中学生ブース&ステージ企画、どちらも大成功!

### 新型コロナウイルス感染症感染拡大! 「未来商店街」開催の危機!

- 令和2年度「未来商店街」開催を地域に問う

- ・コロナ禍での開催には地域の理解が不可欠。アンケートを実施。
- ・開催か否か、意見は拮抗。結果を受けて、関係各団体で話し合い。

コロナ禍でも「未来商店街」をつないでいく! そのためには何ができるか?

- 未来商店街プロジェクトチーム発足! 「形を変えてでも継続していきたい!!」

- ・コロナ禍でできることを考える。
- ・オンラインという方法も浸透していない状況で、開催に向けた模索。
- ・募集により、経験のある中高生5名がプロジェクトチームへ参加。

- みんなで一緒に考える「来年度の未来商店街にあったらいいな!」

- ・公民館で3回のワークショップを実施
- ①商店街について知ろう!
- ②「あったらいいな。」を考えよう!
- ③来年に必要なものはこれだ!
- ・「いろいろな人に来てもらえる「未来商店街」」として各エリアのまちづくり団体に発表。そして、意見交換。
- ・最終的にまとめた意見を教育長へ提出。



- 岡山県公民館連合会公民館職員が選ぶ第4回講座アワード受賞

どのような方法で継続開催するかは未定。しかし、「未来商店街」は継続します!

- 中高生が中心となり、地域を巻き込みながら公民館を拠点に事業を推進

- ・中高生のアイデアを生かす。(TikTokやYouTubeを利用した動画配信)
- ・「地域の魅力を発見!」「地域の人との新たなつながり!」
- ・どのような形であっても、中高生と地域のつながりを継続していく。

地域

### 多くの方の知恵と力でできたこと

花づくり・庭づくりから始まった「シュガーガーデン」。さらに、ここを地域住民が気軽に集える憩いの場にしたいと、廃材を活用しながら整える活動をしてきました。

わたし自身イベントが好きということもありますが、「未来商店街」をとおして、人と人をつなぎながら地域を盛り上げたいという思いで参加しました。

中高生は、企画から関わっていましたが、まちのことを一生懸命考えアイデアを出し、当日の挨拶からも、心から久米南町を誇りに思っていることを感じ嬉しく思いました。また、教育委員会や産業振興課、地域おこし協力隊、商工会等も関わり、改めて、多くの方の知恵と力を実感することができました。

シュガーフレンズ(下之町) 岡部 史子 さん



地域

### 若い世代からいただくもの

生徒たちが意欲的に取り組む姿にいつも感心させられました。会を重ねるうちに話す機会も増え、昔の商店街について話すと、驚いていた姿はとても印象的でした。「未来商店街」は、当時の活気溢れる商店街を彷彿とさせる光景となりました。この「未来商店街」は地区内の住民にとって大切な癒しの場となっている「寄ってっ亭」の活動にも、生き生きとした若々しいエネルギーを与えてくれました。

孫の世代となる生徒さんたちですが、わたしたちも、まちも、たくさんの元気と希望をもらっています。

上之町地区活性化委員会(上之町) 会長 黒田 誠一 さん



中高生

### 自信をくれた地域の大人の存在

友達のお母さんから勧められて参加した実行委員。元々、人と話すことが大好きな私でしたが、たくさんの大人と企画を考えるということは挑戦でした。それでもやり遂げられたのは、「できないことでもアイデアを出してみよう」という実行委員会のスタンスや、わたしたち中高生の意見を否定せず、受け止めてくださる大人の存在が大きかったからです。今では自信をもって、いろんなことに挑戦できるようになりました。たくさんの大人から力をいただいています。

「未来商店街」に関わるのは4年目となります。小学生の頃に、見守り活動や三世代交流等、地域の方々に支えられてきたことが、今、地域のために考え、行動することにつながっています。この先も「未来商店街」が続いていくよう、これからもがんばります。

「未来商店街」実行委員(H30~R3) 平尾 春菜 さん

事務局

### 中高生でいられる一瞬を充実した活躍の場に

「未来商店街」で大切にしていることは、地域の中に中高生の活躍の場をつくること、そして地域の大人との結びつきをつくることです。

コロナ禍ではありますが、中高生が中高生でいられる期間は人生の中で一瞬です。今ある中高生のつながりを途絶えさせないためにも継続して実施することの重要性を感じています。

中高生の地域への愛着や思い出を増やしていけたらと考え、日々活動しています。

久米南町地域おこし協力隊 八木 香織 さん

### 「未来につながる豊かな学びの場」を受け継ぐ

今年度に入ってから緊急事態宣言が発令されるなど、以前のような事業展開が難しい状況が続いています。今年度の「未来商店街」については、「TikTokやYouTubeを利用した動画配信」に決定しました。中高生からのアイデアを生かしつつ取組を継続し、中高生が地域で新しい発見ができ、新たな人々とつながることに結びつくよう工夫をしていきたいと思っています。

中央公民館は令和3年7月31日をもって47年という歴史に幕を閉じ、令和5年度に庁舎等複合施設として生まれ変わります。今まで多くの方が公民館事業に関わり、学びを深めて来られました。これから完成する新施設が、「未来商店街」に関わってくれた子どもたちが大人になっても、いつでも「身近な集いの場」であり続け、「未来につながる豊かな学びの場」として受け継がれていくことを願っています。

久米南町教育委員会教育課 主幹 小藤 寿美さん



平成30年度

令和元年度

令和2年度

令和3年度